

## 鳥取市湖山池湖岸の植物群落

永松 大\*<sup>1</sup>・高橋 法子\*<sup>1,2</sup>・森 明寛

<sup>1</sup>鳥取大学地域学部・<sup>2</sup>日本植生株式会社

山陰自然史研究, No.10, 15-28(2014)

塩分導入が行われた鳥取市の湖山池湖岸と湖岸そばの小湿地で 2013 年夏に植生調査を行ったところ、確認された水生植物は 9 種で、塩分導入前に比べて大幅に減少した。このうち湖岸で確認できたのはヨシだけであった。生育上限を超える湖水塩分のため、他の種は湖水から隔離された周辺の湿地や水路のみに残り、分布面積は激減した。護岸の組成を調べたところ、湖山池では自然護岸は全体の 2 割未満であった。コンクリート護岸は湖水から急角度で立ち上がっている場合が多く、そのような場所ではヨシはほとんど生育しなかった。湖岸周辺の適潤地では人為的影響の強さを反映して外来種の多い植生となっていた。湖山池の淡水性水生植物を残すには短期的には湖水から切り離された淡水性の湿地を確保することが必要であり、人工護岸の改良による沿岸域植生の復元も重要と考えられた。